

会 報

＜第360号＞

次代を築くヒューマンネットワーク

一般社団法人兵庫県建築会



発行日：平成27年10月1日

- 目次 ◎ 月例会報告 『人あまりから人不足社会への転換と人材育成の課題』
兵庫県立大学経営学部長 開本浩矢氏 …… 1頁、特別編
- ◎ 会員寄稿 『退任を機に「建築」人生を少し振り返ってみて』
(株)明和工務店 取締役顧問 中島俊一氏 (当会：理事) …… 2～4頁
- ◎ お知らせ …… 4頁
- ◎ 事務局レポート 『神戸ビエンナーレ2015』 …… 5頁

第441回月例会兼建築会セミナー報告

テーマ： 『人あまりから人不足社会への転換と人材育成の課題』

講師： 兵庫県立大学 経営学部長 開本 浩矢氏

日時： 平成27年9月10日(木) 12時～14時

会場： 神戸三宮東急REIホテル

月例会第441回は建築会セミナー併催として、講師に兵庫県立大学商科キャンパスから開本先生をお招きして開催しました。

先生のご専門は、経営学、組織行動論、人的資源マネジメント等で、この度は、建築会の構成を考慮いただき、業界の今日的な課題である標記のテーマを選定いただきました。



講師 開本浩矢氏

そして、企業における「人材定着の課題」、そもそもの「採用戦略の問題」、採用した「人材育成の問題」、これらを総括する「戦略的人的資源

管理」について、女性活用の考え方やユニークな採用の事例から見る採用戦略、そして最近の若者気質等の具体例を交え、建設業界の問題にも反映する講演をいただきました。

講演内容は、それぞれが大変貴重なお話で、ボリュームもあることから、講演概要を特別編として別冊にまとめさせていただきましたので、是非ご一読下さい。

なお、本来の建築会セミナーは暫く開催できていませんが、このようなセミナー併催分につきましては、折角の機会ですので、さる3月の月例会からできるだけ多くの関係団体にもご案内をさせていただいています。

この度は、特に業界にとって今日的な課題であることから、会場も満席の盛況となりご協力に感謝申し上げます。

今後もテーマに応じセミナー併催として開催をしていきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



講演会会場風景



講演会後の懇談

《はじめに》

兵庫県建築会の会員の皆様、ご無沙汰いたしております。今年6月の弊社株主総会において6年間勤めた代表取締役社長を退任し、後継社長に順当にバトンを渡すことができました。6月から8月にかけて新社長を伴ってお得意様や系列会社をはじめ、業界関係や関連の協力会社様等へのご挨拶・ご紹介を続け、何かとバタバタと落ち着かない日々を過ごしておりましたが、それもひと段落してホッ！とし始めた9月の昨今であります。

この度、事務局より建設業界への思いや経営職としての思い出、また、昔の話、近況等々を題材に寄稿のご依頼を受けました。誠に僭越で甚だお恥ずかしい限りの内容ではありますが、私の「建築」人生を少し振り返った雑感を記させていただきます。

《建築士へのあゆみ》

私が生まれましたのは大阪で1950年朝鮮戦争が勃発した年で、第2次世界大戦の戦後からの復興が急激に加速し始めたころと聞いています。丁度戦後のベビーブーム団塊の世代のすぐ後の世代でこれが後々まで優秀で数多い先輩方と競わねばならないスタート条件であったと思います。早くして父が他界したため少し苦しい生活ではありましたが、優しい祖父母と頑張り屋の母のお陰で何とか普通に成長いたしました。建築に興味を持ったのは小学生の頃叔父に連れられ奈良の寺社仏閣に頻繁に出かけたのが最初のきっかけで、中学生の頃では1964年の東京オリンピックへ向けての様々な施設建設のニュースの中で代々木の丹下健三氏が設計したオリンピックプールの屋根に驚嘆したのをよく覚えています。さらに建築への道を強く意志づけたのは、



大阪万国博覧会（1970年）

1970年に開かれた大阪万博のパビリオン群でした。準備工事が1年以上前から始まり、よく工事中の建物施設を遠くからですが見に行きました。もちろん開会してからは幾度も行って、好奇心を

満足させたものです。

私の大学入試の年は学園紛争の末期でそのアオリを受け東京大学の入学試験が実施されなかった唯一の年で、全国的にその影響を受けたことと、元々の力不足もあり、あえなく浪人となり翌年の入学となりました。大阪近郊からの通学でしたが、梅田駅から乗る阪急電車内の女子学生の華やかな雰囲気ですっかり魅了され、授業より電車通学の方が皆勤であった気がします。建築学科の学部生時代はまだ好景気で建設業界も順調な様相でしたが、大学院の修士課程を終える頃広まった第一次オイルショックの影響で全国の建設関連企業が新規採用を控えるという事態に直面しました。

少し話は前後しますが、学部の3年の終わり頃から大学院の2年の途中位まで設計事務所へお手伝い兼勉強に行っていました。お手伝いの方はどの位役に立ったかは分かりませんが、そこは今では世界的巨匠となられた安藤忠雄さんの事務所でした。その頃は所員がまだほんの数人しか在籍しておらず、住宅や店舗設計が主で色々なコンペにも参加していました。ある時徹夜で書いたトレーシングペーパーの原図で安藤さんにチェックしていただいた折、マジックペンで添削指示があり、また一から全部書き直す羽目になり、その次からはコピーした図面でのチェックをお願いするよう心したのを覚えています。

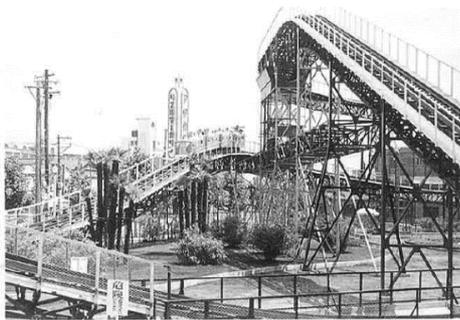
安藤事務所に入出入りしていた頃、事務所を訪れる多くの若手から中堅の設計者の方々がおられ、徐々にそのあと有名になった方もたくさんいらっしゃいました。そんな中に自分がおり、もちろん設計者を目指していましたので、当然自分も一流の設計者になれると思いこんでいた、後になると大いなる勘違いの頭の中の状態でありました。そんなわけで先に述べました大学院卒業時に就職先が極端に少なく大変な状況ということは分かっているつもりではあったのですが、どこかで修行して数年で独立するという夢をもち、あまり深刻には捉えていませんでした。

《明和工務店へ》

大学院卒業の少し前に教授のご紹介により株式会社 明和工務店に入社することになり、建築設計と管理の実務の道に入りました。当初の目論見通

りに早く実務を覚えて独立をと考えていましたので、かなり一生懸命働きました。当時の上司は非常に優秀な方々が多く、厳しい指導・指示もありましたが、意匠・構造・法規・設備・電気・造園 etc. 色々なことを教えていただきました。上司の方々は経験を積み慣れてくると私が辞めるかもしれないと察知されていたのか、次から次へと目新しい仕事への担当指示があり、責任ある仕事も任せていただけるようになり、仕事そのものが楽しいものとなり、あっという間に年月が経って行きました。その間に結婚もし、一から不安定な生活をスタートする勇気を持ってないまま会社での仕事の責任はますます重いものになっていき、部下も付き、独立して事務所を開くどころか会社設計業務の中心となっていきました。

弊社は建築以外にも当時は遊園地の遊戯施設(工作物)を設置する仕事も全国的に行っていました。余談ですが弊社の前身は戦前の川西航空機株式会社の営繕部門がルーツで社員の中には建築技術の他に機械や電気の設計技術者が多数在籍し、戦後平和産業への転換という方針の下、機械の製作・設置をいち早くスタートさせており、多くの遊園地に納品していました。ちなみに東京の後楽園遊園地に設置したコースターに遊園地の方々と共に弊社が名付けたのが「ジェットコースター」



東京後楽園遊園地 ローラーコースター(昭和30年7月竣工)
東京後楽園遊園地 ローラーコースター (1955年)

であります。設置オープンの日である7月9日は今でもジェットコースターの日として登録されています。



国際花と緑の博覧会 (1990年大阪)

この遊戯機械施工会社という経験と地元建設会社で設備部門も有するとの面でご縁があり、1990年に開かれた花の万博ではパビリオンや遊園地ゾーンの機種をいくつか設計施工させていただくことができ、その担当者として万博の仕事という学生時代の夢を一部かなえて頂く事が出来ました。

《震災と転機》

建築の設計施工という取り組みが徐々に設計・施工分離へと進んで行く世の流れの中で弊社は建築施工部門と遊園地テーマパークを中心としたレジャー部門への道を拡げつつ歩みを進めておりましたが、1995年あの阪神淡路大震災に直面する事態となりました。震災当時の詳しい事につきましては、昨年末の会の特別号にも多く



長島スパークランド ホワイトサイクロン(木製コースター)

の方が記されておりますのであまり多くは語りませんが、当時弊社は県庁前の赤十字病院の隣であったため、県警本部から病院前反対隣の銀行の向こうまで前の道路が全国から駆け付けてくれた救急車・消防車・パトカー・自衛隊の車でまるで野戦病院の様相でした。地元建設業者として多くの同業者・協力会社と協力・分担して、近隣・顧客・役所関連の建築・設備に関する復旧・復興に努める日々が続き、気がつけば3年が経っていました。

その後厳しい不況の中で何とか建築部門・設備部門・レジャー部門を維持しつつ、建設関連としては最も近くその川上に位置する不動産部門、特に土地入手から分譲マンション事業・賃貸マンション事業等へ間口を拡げ、事業継続を図ってきました。結局レジャー部門の事業も不動産マンション部門の事業も自分が旗振り役であったように思いますが、不動産と言えは8年前、60年間お世話になった県庁前の会社社屋を隣の銀行の閉鎖をきっかけに共にマンションディベロッパーに売却し、今のポートアイランド社屋に移転したことが強く



本社社屋(神戸市中央区港島中町)

印象に残っています。売却条件の交渉も難航しましたが、売却した後の引っ越し先を探すのに相当苦勞をしました。幸い良いご縁があり、分不相応な周囲環境の中で社員共々あと少しで創立70周年を迎えることができそうです。

設計部長・レジャー事業部長・開発事業部長・建築・土木事業部長を経て2009年6月に代表取締役社長に就任いたしました。その前年の2008年のり

一マンショックの影響で新規設備投資が激減する中でスタートで、何とか現状打破の願いを込めた民主党への政権交代がこの年にありました。しかし、新政権のスローガンが「コンクリートから人へ」という建設業にとって真冬の時代突入を宣言された表現に悲しみを覚えたものです。2009年2010年と必死に経営責任者としてもがいておりました。同業の皆様方におかれましては大なり小なり同様の状況であったかもしれませんが、何とか事業運営を続ける事が出来ました。2011年にはもっと困難な状況になると考えておりましたが、3月11日に予想だにできなかった東日本大震災が発生し、それまでの建設業界を取り巻く環境が激変しました。「安全と安心」をキーワードに建設業の必要性が少しずつではありますが再認識されるキッカケにもなり、その翌年の2012年末には再び自民党への政権交代を機に大きな転換へと進むこととなりました。その後の日銀の円安への誘導策が日本の製造業の再構築や建設産業の回復へ徐々につながり、2013年度2014年度においてはかなり安定したものになってきたと感じております。ただ安定した好状況からの自信故か本年度になってからの政権のあまりにも強引な姿勢には如何に東アジアの脅威があるとはいえ、不安を増大させています。常に多数決が基本の民主主義ですが、少数派の意見を無視しないことも大切な前提だと思います。

今年の夏、ヨーロッパを少し旅しましたが、ギリシャ問題・トルコ問題に対応するEUの姿勢や今般のシリア難民に対するドイツ・フランス等の具体的立場表明等を現地にて感じると、ヨーロッパ社会の大人としての成熟度は日本に比べやはり数段上との思いをもちました。全てにおいて相互理解のための話し合いの場の重要性を認識した次第です。

《おわりに》

長々と取りとめもない雑感を並べ立ててしまい、申し訳ありません。無事に後進にバトンを渡すことができましたが、建設業法の経営管理責任者として後しばらく取締役に残り、後進支援に努めつつ、兵庫県建築会をはじめ業界関連団体の運営発展に微力ながらお役にたてるよう努力してまいる所存です。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ゆとりの時間を作って下手なゴルフと家内をつれた小旅行、それに10年前から趣味と実益を兼ねてやっている西区や北区のブドウ園から分けていただく予定の数種類のブドウを使った自家製ワイン造りに勤しんで参りたいと考えております。

……乾杯！！

お知らせ

◎ 行事ご案内

① 第442回月例会・・・参加者募集中

テーマ：須磨学「武庫離宮100年と別荘文化」

講師：小林 善彦氏

NPO法人須磨歴史倶楽部理事長

日時：10月15日（木）12時～14時

会場：西村屋和味旬彩

意外と知られていない、近代別荘文化発祥の地“須磨”の歴史が紹介されます。

② 見学研修会（兼第443回月例会）

日時：11月5日（木）8：45出発

見学先：①大阪ガス ハグミュージアム

（大阪市西区）

②正倉院展（奈良市）

③東大寺、春日大社

新装なった大阪ガスショールームと正倉院展、式年遷宮の春日大社を核に見学します。

③ 平成28年日程

1 新春会員交流会（兼第444回月例会）

日時：平成28年1月14日（木）17：30～

会場：神戸三宮東急REIホテル

2 第445回月例会

テーマ：（仮題）夢と浪漫をいだいて

～スペイン巡礼の旅～

講師：石田邦夫副会長

日時：平成28年2月18日（木）12：00～

会場：西村屋和味旬彩

◎ 事務局便り

9月は激動の月となりました。

17号、18号の台風では、相互作用による線状降水帯は、北関東・東北に大水害を招き、大規模河川の決壊の怖さを見せつけられました。未曾有が毎年起こる時代となりましたが、被災地対策、人命救助における自衛隊の意義を改めて認識しました。そして国会周辺の喧騒の中、安全保障関連法が成立し、国の防衛指針が改まりました。

上旬には早くも優勝決定予定日をクイズにした某パーソナリティ番組がありましたが、例によって詰め甘く、80周年記念優勝がはかなくも夢と消えた某阪神球団、世の中甘くありませんでした。

いずれにしても、好天のシルバーウィークは楽しめましたでしょうか。次回は11年後とか、少なくとも私は、その頃は1年を通じゴールデン、シルバーウィークの日々となっていることでしょう。

事務局：谷 純夫、石井滝実子

電話：078-996-2851

FAX：078-996-2852

Email：archit-k@axel.ocn.ne.jp

会期 9月19日(土)～11月23日(月・祝)

本年3月10日の月例会兼建築会セミナーで、『神戸ビエンナーレのテーマ“スキ。”について』総合プロデューサー・華道家の吉田泰巳氏による講演会を開催しました。そのこともあり、開会2日目にメリケンパークのメイン会場を視察、鑑賞してきました。会場へはハーバーランドの「UMIE」(グリーンアート展)、中突堤・かもめりあ(しつらいアート展・グリーンアート展)を見ながらメリケンパーク会場の、屋外のしつらいアート展の作品を鑑賞してメインのテント会場へ向かいました。

11時の開場時間少し前に入場門へ行くと、忙しく準備の作業を指示したり自ら作業する吉田泰巳氏の姿がありました。ご挨拶し、入場券の心配を頂きましたが、少々でも協力をさせていただくことで、お気持ちだけ頂戴しました。(何しろ65歳以上のシニアは半額と優遇)

多種多様で、巨大な作品も多く、そして広い会場への展示の苦心を拝察しながらの鑑賞でした。

禁止表示ない限り撮影可、そして作品に直接触れて楽しめるなど大変自由な作品展です。

まだ、元町高架下『いけばな未来展・野外展』、東遊園地『アートインコンテナ国際展』、フラワーロード『光のミュージアム』があり、なかなか1日では難しいので、時間、日程を分けて見学にいきたいと思います。

吉田総合プロデューサーからは、皆さんに是非お越しいただくよう広報をよろしくとのことでもあり、このコーナーを企画しました。

写真は極一部ですが、後は現地でお楽しみください。



総合プロデューサー
華道家 吉田泰巳氏
開場準備に大わらわでしたが、入場門でお迎えいただきました。



ステレオのスピーカーを利用した入場門。これも出品作品です。

しつらいアート
国際展
『SHRIN』



TENT 1 エントランスホール

吉田プロデューサーの作品だと思います。ここから先は現地で鑑賞ください。



TENT 4
創作玩具国際展
『アカリノパズル』

子供たちが作品で遊んでいる。他の作品もそうだが誰でも手に取って確認できます。



TENT 4
入賞作家招待
作品展
『Polyphony Road～森への招待』
副題 てをあげて
画面の絵に自分の顔を写して楽しんで下さい



TENT 5
ペインティングアート展
迫力の大画面を生かした生命力に溢れた作品が展示されています。



ハーバーランド～中突堤(かもめりあ)グリーンアート展
『鳴滝』
展示案内には「飲食禁止」のみ表示。買い物客が上がって寛いでいました。